

みなさんに伝えたい 静岡県の戦争の記憶と記録

令和7年（2025年）は、昭和20年（1945年）に戦争が終わってから80年になります。
今を生きるみなさんは、80年前の戦争のことを知りません。

この資料には、戦争によって静岡県出身の方がどれくらい亡くなったのか、県内でどのようなことがあったのか、ということをもとめました。

みなさんには、過去の戦争を知ることで現在の平和の尊さを学んでいただき、これからはみなさんが平和を守り続けていくことを願っています。

静岡県出身者の戦争で亡くなった人の数（亡くなった場所別）

戦争中には、静岡県からも約32万人が中国やアジアの国々、南太平洋の島々、沖縄などの戦地に行きました。戦場でけがをしたり、食べ物が足りなかったり、病気になったりして、7万人以上の人が命を失いました。

また、戦後、シベリアやモンゴルなどに連れて行かれた人たちは、とても寒い場所でつらい仕事をさせられました。その中には、寒さや食べ物の不足で苦しい思いをし、ふるさとに帰ることができないまま亡くなった人もたくさんいました。

遺骨収集の現状

海外で亡くなった日本人は、約240万人います。そのうち、令和6年（2024年）12月末の時点で、約112万柱の遺骨が、亡くなった場所に残されています。厚生労働省は、昭和27年（1952年）から海外に残された遺骨を集めています。そして、平成28年（2016年）には「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」という法律ができました。この法律により、令和11年（2029年）までの間に、国が責任を持って、まだ日本に帰ってきていない遺骨を集めることが決まり、作業を進めています。

①海外戦没者概数	2,400,000人
②未収容遺骨概数	1,123,000柱

②の内訳		
海没		約30万柱
相手国の事情により収容困難		約23万柱
収容可能な遺骨概数（最大）		約59万柱

出典：厚生労働省「地域別戦没者遺骨収集用概見図（R6.12）」

中国残留邦人

戦後の混乱の中で、家族と離ればなれになり、中国や樺太に残ることになった日本人たちを「中国残留邦人」といいます。昭和47年（1972年）に日本と中国との行き来ができるようになってから、令和6年（2024年）12月末までに、全国で約2万人、静岡県では239人が日本に帰国しています。

多くの人はみなさんの両親や祖父母くらいの年齢になってから日本に帰ってきたため、日本語を覚えるのがむずかしく、長く続けられる仕事が見つからなくてお金の心配がある、地域での生活になじめないなど、とても苦労しています。

静岡県では、このような人たちに生活費を支給したり、日本語を学ばお手伝いをしたりしています。

北方領土問題

北方領土は、北海道の東の海にある、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の4つの島々のことをいいます。北方領土には、昭和20年（1945年）の戦争が終わるころ、3,124世帯、17,291人の日本人が住んでいました。この島々は、古くから日本以外のどこの国の領土にもなったことはありません。

しかし、日本がポツダム宣言で降伏する意思を示した後にソ連軍がこの4つの島々に上陸し、日本人を追い出してしまいました。それから今まで、ロシアがこの島々を不法に占領しています。

静岡県は、日本とロシアの国境を決める国同士の約束「日魯通好条約」が下田市で結ばれた歴史があり、北方領土との関係が深い地域です。北方領土の返還のため、下田市や県内のいろいろな場所で、多くの人々に、北方領土について知っていただくための活動を続けています。

シベリア抑留

昭和20年（1945年）8月9日、戦争が終わる少し前に、ソ連という国が戦いに参加して、満州や樺太、千島列島に攻め込みました。そして戦後、約57万5千人の軍人や民間人がシベリアなどへ連れて行かれ、無理やり働かされました。この期間は、一番長い人で11年も続きました。食べ物が少なく、寒さが厳しい中、つらい仕事をさせられたため、5万5千人以上が亡くなりました。

その中には、静岡県出身の約1,700人も含まれています。この人たちの思い、祈るための慰霊碑が平成15年（2003年）に富士市に建てられ、毎年11月8日には、この慰霊碑の前で慰霊祭が行われています。



学徒勤労動員

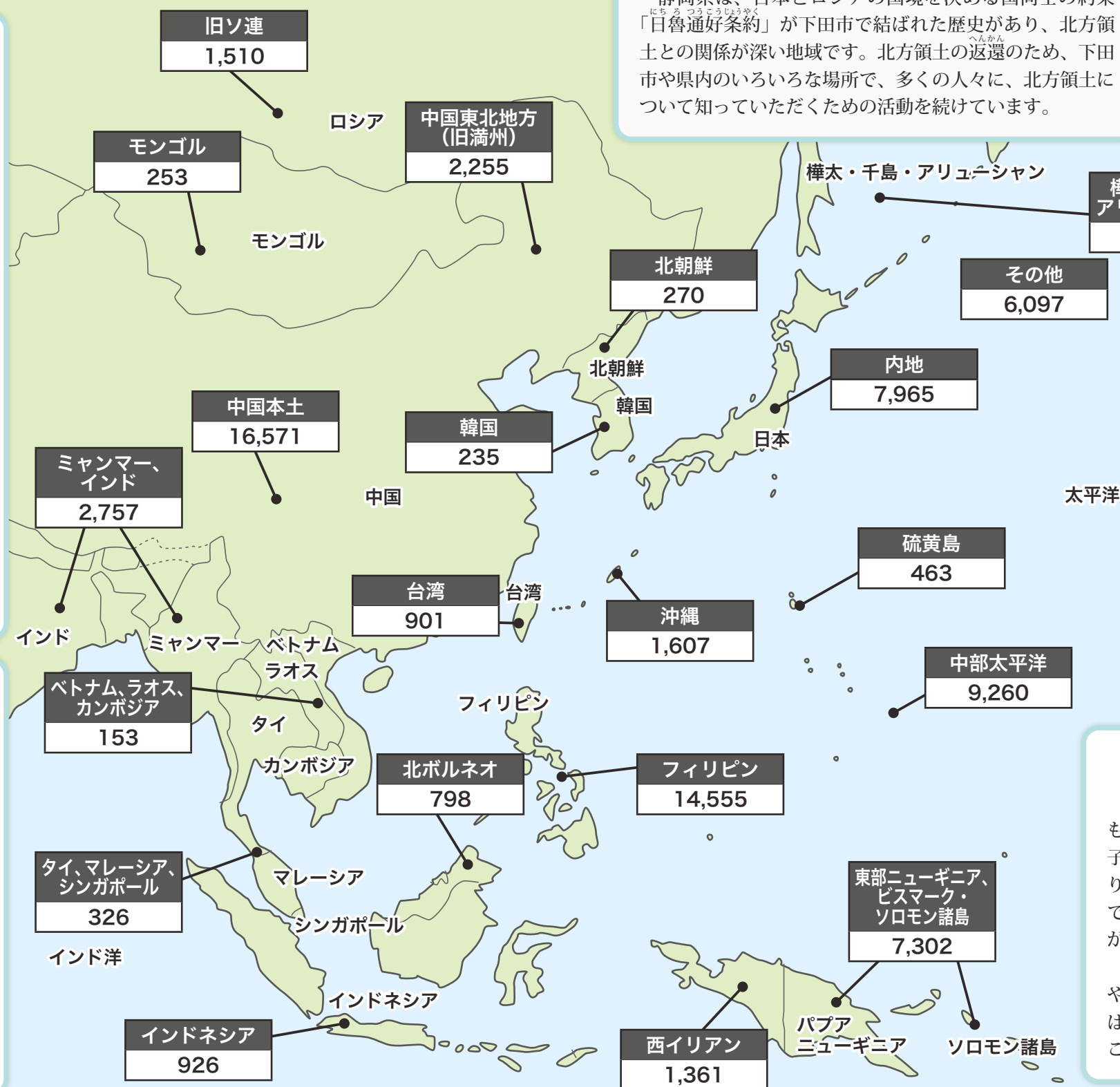
戦争中、農村や工場では働く人が足りなくなり、中学生から大学生までの学生が、戦争で使うものを作る工場などで働くのが義務になりました。昭和20年（1945年）8月15日の終戦のころには、全国で340万人以上の学生が働いていました。そのうち、工作中に亡くなった人は19,066人、けがや病気になった人は9,789人と記録されています。

静岡県内では、中学や高校など99校から、約3万4千人の学生が動員されました。しかし、工場で働いているときに爆撃を受け、学生や引率の先生が命を落とす悲しい出来事もありました。校内に慰霊碑を建てたり、慰霊祭を行ったりして、亡くなった学生や先生を思い、平和を願う活動を続けている学校もあります。

学童疎開

南太平洋地域やアジアでの戦いが厳しくなり、日本の町にも空襲が起こる危険が高まりました。そのため、お年寄りや子どもたちを安全な場所に移す「疎開」が行われることになりました。昭和19年（1944年）の夏から始まった「学童疎開」では、小学校3年生から6年生までの子どもたち、約70万人が地方に移りました。

静岡県でも、東京から23,644人の小学生を受け入れ、お寺や旅館などで生活しました。親元を離れて暮らす子どもたちは不安やさみしさを感じていましたが、地元の人たちは心をこめて迎え、みんなで力を合わせて子どもたちを支えました。



出典：静岡県史 別編 図説静岡県史

戦争で亡くなった人の数（市町別）

静岡県では、100回以上も空襲があり、たくさんの建物が焼け、多くの人たちが命を失いました。

浜松市 プラタナスの木 （浜松駅北口広場、緑化推進センター、浜松城公園）

昭和19年（1944年）12月から昭和20年（1945年）8月までの間に、浜松市は27回も空襲を受けました。街路樹のプラタナスの木の幹にはこげた跡が残りましたが、2年後の春に新しい芽が3本出ました。空襲の被害から生き残り、市民とともに生きた木として、昭和39年（1964年）6月に「市民の木」と名付けられ、復興のシンボルとして、市民に希望を与え続けています。



平成4年（1992年）からは、毎年8月15日に浜松駅北口広場のプラタナスの木の前で、「戦争の悲さんさ、平和の大切さ」を伝えるコンサートが開かれています。

御前崎市 御前崎市遠州海岸沿い 陸軍観測所（トーチカ）

昭和15年（1940年）、砲弾の飛ぶ道や当たる場所を調べるため、掛川市浜野から御前崎市池新田までの東西16kmにわたる遠州灘沿いに、「遠江射場」が作られました。

戦後は長い間そのまま放置され、荒れ果てていました。しかし、令和2年（2020年）、地元の「ふるさとの自然をまもり隊」という団体が、この遺跡を守り伝えるため、木を切り倒してきれいにし、建物の中や外にあったたくさんのゴミを片付けました。また、桜の木を植えたり、説明板や案内の看板を建てたりしました。今では市民が立ち寄り、戦争で亡くなった人々を思い、平和を祈ることができる場所となっています。



①戦死者数	戦地での仕事中のけがや病気で亡くなった軍人などの数 （日華事変（昭和12年7月7日）以降）
②一般戦災死者数	戦争による空襲や艦砲射撃などで亡くなった人の数

①②市町調べ

湖西市	① 1,053 ② 17
-----	-----------------

②：旧入出村、旧新居町分

島田市 島田市川根町天王山公園内 英霊顕彰慰霊碑

昭和29年（1954年）、戦争で亡くなった343人をまつるために招魂社（亡くなった人の魂を大切に思い、祈る場所）が建てられました。しかし、建物が古くなったため、平成20年（2008年）に取りこわされました。その後、遺族の新しい心のよりどころとして、平成26年（2014年）に「英霊顕彰慰霊碑」がその場所に建てられました。

この石碑には、元内閣総理大臣の小泉純一郎さんが書いた文字が刻まれています。また、台座には、大井川のはじまりの場所で採れた石が使われています。



川根本町	① 不明 ② 不明
浜松市	① 不明 ② 2,947
島田市	① 1,678 ② 47
藤枝市	① 不明 ② 不明
森町	① 不明 ② 不明
磐田市	① 3,656 ② 不明
湖西市	① 1,053 ② 17
袋井市	① 1,760 ② 不明
掛川市	① 2,931 ② 不明
菊川市	① 1,320 ② 不明
御前崎市	① 1,223 ② 不明
焼津市	① 不明 ② 不明
吉田町	① 不明 ② 不明
牧之原市	① 1,957 ② 不明

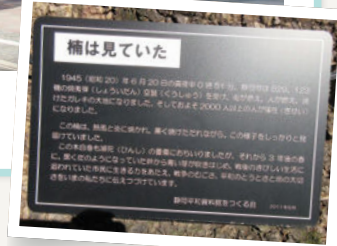
静岡市 安倍川花火大会

昭和28年（1953年）に、戦争で亡くなった方々を思い、その魂をなぐさめるため、そして町の復興を願って、花火大会が始まりました。花火大会の前には、主催者によって慰霊祭が行われています。



静岡市 静岡赤十字病院前 クスノキ

昭和20年（1945年）6月20日早朝の静岡大空襲で焼けてしまったクスノキの幹から、3年後に新しい芽が出て、10メートル以上の高さまで成長しました。この「奇跡のクスノキ」から育てたたえ木の1本が、令和4年（2022年）6月、静岡市の竜南小学校に子どもたちの手で植えられました。



御殿場市 御殿場市玉穂小学校内 玉穂忠霊塔

昭和15年（1940年）、玉穂小学校の創立50周年を記念して、忠霊塔（戦争で亡くなった人々を忘れないようにするための塔）が建てられました。この塔には、日清戦争や日露戦争、そして太平洋戦争で亡くなった玉穂村出身の110人がまつられています。

戦争が終わったあと、日本は連合国軍最高司令官総司令部（戦後、日本を管理していたアメリカを中心とした組織）の指示で民主化を進めることになり、忠霊塔もこわすことに決まりました。しかし、村の人々は「どうしてもこの塔を残したい」という強い思いを持っていました。そこで、昭和27年（1952年）に日米講和条約が始まるまでの3年間で、忠霊塔を「平和塔」と書かれた木の箱でかくし、塔を守り続けたそうです。



富士宮市	① 728 ② 不明
御殿場市	① 969 ② 不明
小山町	① 670 ② 18
裾野市	① 657 ② 不明
三島市	① 1,482 ② 不明
函南町	① 405 ② 不明
熱海市	① 1,026 ② 不明
伊東市	① 1,485 ② 不明
伊豆市	① 1,216 ② 不明
伊豆の国市	① 不明 ② 不明
沼津市	① 3,383 ② 322
清水町	① 不明 ② 不明
西伊豆町	① 261 ② 不明
松崎町	① 不明 ② 不明
南伊豆町	① 568 ② 不明
下田市	① 972 ② 117
河津町	① 不明 ② 不明
東伊豆町	① 429 ② 不明
静岡市	① 不明 ② 不明
焼津市	① 不明 ② 不明
吉田町	① 不明 ② 不明
牧之原市	① 1,957 ② 不明

※不明：資料により人数が違うため正確な人数がわからない、資料がない、などの理由による

静岡県^{ついでとうしせつ}の追悼施設・追悼行事

静岡県^{せんぽつせんさいし}戦没戦災死者慰霊標^{しや いれいひょう}（静岡市）



昭和27年（1952年）10月、国のために命をささげた人や、戦争によって犠牲になった多くの人々を思い、その魂をなぐさめるために「静岡県戦没戦災死者慰霊標」が建てられました。

この慰霊標は、戦争で亡くなった人たちの記憶を後の世代に伝えるとともに、平和を願い、戦争の悲しみを忘れないようにするための、また、日本が戦争を乗り越え、平和な国として新たに歩み始めたことを表す、大切な場所です。

静岡県戦没戦災死者春季追悼式 開催時期：毎年4月下旬
静岡県戦没戦災死者秋季追悼式 開催時期：毎年10月23日
主催：公益財団法人静霊奉賛会

沖縄^{とう}「静岡の塔」（沖縄県糸満市）



昭和41年（1966年）4月、沖縄や南太平洋の島々で亡くなった静岡県出身の約4万人の人たちをたえ、その魂をなぐさめるために、沖縄県の摩文仁の丘に「静岡の塔」が建てられました。

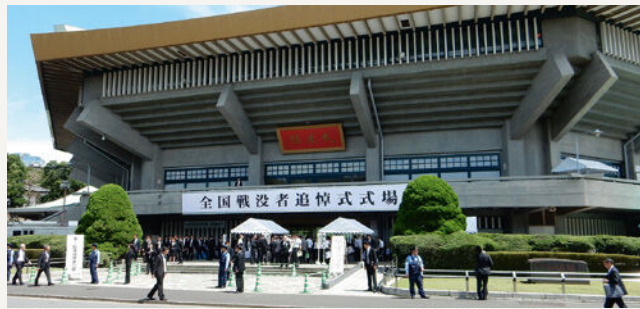
塔の正面の石には富士山の彫刻があり、祭壇や参道には静岡県の伊豆地方で採れる伊豆石が使われています。

（銘石碑文）魂は 富士につながる いついつまでも
（静岡県知事 斎藤寿夫）

沖縄「静岡の塔」追悼式
開催時期：毎年11月上旬
主催：公益財団法人静霊奉賛会

全国^{ついでとうぎやうし}の追悼行事・追悼施設

全国戦没者追悼式



戦争で命を失った310万人以上の方々に対して、国をあげてその人たちを思い、感謝の気持ちをささげます。そして、二度と同じ悲しみを繰り返さないよう、平和を願います。



開催時期：毎年8月15日
開催場所：日本武道館（東京都千代田区）
主催：政府

千鳥ヶ淵^{ちどりがふちせんぼつしや}戦没者墓苑^{ぼえん}（東京都千代田区）



昭和34年（1959年）3月28日、海外で亡くなった軍人や一般の日本人の遺骨を納めるために、「無名戦没者の墓」が作られました。

令和6年（2024年）5月の時点で、37万700柱の遺骨が六角堂の中に安らかに眠っています。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑^{ちどりがふちせんぼつしや}拝礼式^{はいれいしき}
墓苑に納められているご遺骨^{いこつ}に対して、心をこめてお祈りをします。また、遺骨を集める活動で集められたものの、ご遺族にお渡しすることができなかったご遺骨^{いこつ}の納骨も行われます。

開催時期：毎年5月下旬
主催：厚生労働省

各市町^{ついでとうぎやうし}の追悼行事

みなさんの住むまちでも、戦争で亡くなった人たちを思い、平和を祈る追悼行事が行われています。

番号	市町名	開催時期	追悼行事の名称	主催者
1	静岡市	8/15	静岡市戦没者を追悼し平和を祈念する式典	【第1部：慰霊法要】静霊奉賛会静岡市支部 【第2部：式典】市
2	浜松市	8/15	浜松市戦没者追悼平和祈念式	主催：市 協賛：（一社）浜松市戦没者追悼平和推進協会
		6/18	浜松市戦災死者慰霊祭	浜松市戦災遺族会
3	沼津市	8/15	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」の式典	静霊奉賛会沼津支部
			沼津市戦没者戦災死者慰霊法要	沼津市遺族会
4	熱海市	9月下旬	熱海市戦没者追悼式	市
			熱海市戦没者慰霊祭	熱海市遺族会・奉賛会熱海市支部
5	三島市	7月上旬	三島市戦没者追悼式	市
6	富士宮市	8/15	富士宮市戦没者追悼式	市
7	伊東市	9月下旬	伊東市戦没殉難者追悼式	伊東市遺族会
8	島田市	7/26	島田空襲被爆者慰霊のつどい	市
		8/15	島田市平和祈念式典	市
9	富士市	8/15	富士市戦没者追悼式	市
10	磐田市	8/15	磐田市平和祈念式	市
11	焼津市	8/15	焼津市戦没者追悼式・平和祈念式典	市
12	掛川市	8/15	掛川市戦没者追悼式・平和祈念式	市
		3月	掛川ブロック春季戦没者慰霊祭	掛川市遺族会掛川ブロック
		7月	大東ブロック盆供養祭	掛川市遺族会大東ブロック
			掛川ブロック盆供養祭	掛川市遺族会掛川ブロック
		11月	大須賀ブロック戦没者慰霊祭	掛川市遺族会大須賀ブロック
13	藤枝市	8/15	藤枝市戦没者追悼・平和祈念式典	市
14	御殿場市	隔年	御殿場市戦没者追悼式・平和祈念式典	静霊奉賛会御殿場市支部
15	袋井市	8/15	袋井市戦没者戦災死者追悼・平和祈願式	市
16	下田市	開催時期未定	下田市戦没者・戦災者追悼式	市
17	裾野市	8/15	裾野市戦没者追悼式	市
18	湖西市	4月下旬又は5月下旬	湖西市戦没者追悼式	市
19	伊豆市	8/15	中伊豆支部慰霊祭	伊豆市遺族会中伊豆支部
		3/10	修善寺支部慰霊祭	伊豆市遺族会修善寺支部
20	御前崎市	8/15	御前崎市戦没者追悼式・平和祈念式典	伊豆市遺族会修善寺支部
21	菊川市	8/15	菊川市戦没者追悼式	御前崎市社会福祉協議会
22	伊豆の国市	3年ごと	伊豆の国市戦没者追悼式	市
23	牧之原市	5月	牧之原市戦没者戦災死者追悼式	静霊奉賛会牧之原市支部
24	東伊豆町	9月上旬	東伊豆町戦没者戦災者合同慰霊祭	東伊豆町遺族会
25	河津町	10月下旬	河津町戦没者招魂祭	河津町遺族会
26	南伊豆町	9月下旬	南伊豆町戦没者慰霊祭	南伊豆町遺族会
27	松崎町	10月下旬	松崎町戦没者慰霊祭	松崎護国神社奉賛会
28	西伊豆町	5年ごと	西伊豆町戦没者追悼式典	町
29	函南町	8/15	函南町戦没者追悼式	町
30	清水町	8/15	清水町戦没者を追悼し平和を祈念する式典	清水町社会福祉協議会
31	長泉町	8/15	長泉町戦没者を追悼し平和を祈念する式典	町
32	小山町	8/15	終戦平和祈願慰霊供養式	小山町忠霊奉賛会
		10月下旬	小山町戦没者慰霊祭	
33	吉田町	10月上旬	吉田町戦没者追悼式	町
			川根本町戦没者追悼式	町
34	川根本町	11月中旬	中川根戦没者慰霊祭	川根本町遺族会
			本川根戦没者慰霊祭	
35	森町	8月中旬	森町戦没者追悼式・平和祈念式	町

戦争体験を語りついでいくために

静岡県遺族会では、戦争の痛みや悲しみ・平和の大切さなどを、これから生きるみなさんに語りついでいくため、「平和の語り部事業」に取り組んでいます。

- 学校や地域で、戦争により大切な人を亡くした遺族の方の思いや体験、戦中・戦後の暮らしなどを知りたい。
- 遠足や社会科見学などで、身近にある慰霊碑や戦争の傷跡、防空壕などの見学、清掃などを体験しながら地域の歴史を学びたい。
- 修学旅行などの事前学習として、遺族の方と、戦争の歴史や平和の大切さなどについて話し合いたい。

こうした声にお応えするため、学校や各種の団体、地域の方からのご要請に応じて、語り部の方の紹介も行っています。遺族のお話を聞いてみたい方、平和の語り部事業にご関心ある方は、ぜひご連絡ください。

お問い合わせ先

一般財団法人静岡県遺族会

TEL : 054-261-7796 E-mail : shizuokaken_izokukai@ybb.ne.jp

静岡県のホームページでは、県内で活動している語り部の情報を紹介しています。また、戦争で亡くなった方々のご遺族が、自分たちの戦争体験をまとめた冊子も公開しています。

語り部の情報



戦争体験冊子



県内の戦争について学べる資料館

静岡平和資料センター

「日本国憲法」と「静岡平和都市宣言」を基本の考え方とした、平和について学ぶための資料センターです。静岡や清水で起きた空襲についての展示、市民から寄付された戦時中の資料の貸出などを行っています。

平成5年(1993年)開館、平成20年(2008年)現在地に移転。



【開館時間】 11:00~16:00

【開館日】 毎週金・土・日曜日

【住所】 静岡市葵区伝馬町10-25 中央ビル90 2階

【電話】 054-271-9004

浜松復興記念館

復興土地区画整理事業が終わったことを記念して、悲しい戦争の記憶や、復興のために努力した人々のことを忘れないための施設が作られました。浜松がどのように復興していったのかを記録し、展示しています。

浜松大空襲の出来事や、当時の市民の生活、文化、そして町並みがどのように変わっていったのかを、次の世代に伝えることを目的としています。

昭和63年(1988年)開館



【開館時間】 9:00~17:00

【休館日】 月曜日(祝日の場合はその翌日)、国民の祝日の翌日、年末年始

【住所】 浜松市中央区利町304-2

【電話】 053-455-0815

令和7年4月発行

静岡県・公益財団法人静岡霊奉賛会

問い合わせ先

静岡県 健康福祉部 福祉長寿局 地域福祉課

静岡市葵区追手町9-6

TEL : 054-221-3614

E-mail : chifuku@pref.shizuoka.lg.jp

協力 一般財団法人静岡県遺族会、市町援護担当課

※資料によって調べ方が違うため、ここに書かれている被害などの数字が、ほかの資料とは違うことがあります。